

知床世界自然遺産 ヒグマ保護管理方針検討会議（仮称）について

検討の目的

ヒグマが高密度に生息する知床半島において、ヒグマ個体群を健全に保全するとともに、利用者、地域住民との軋轢を解消するため、基本的な保護管理方針を検討することを目的とする。

検討の体制

知床世界自然遺産地域科学委員会および各 WG 等に所属する以下の委員および行政機関により構成する。なお、事務局は環境省釧路自然環境事務所が務める。

- ・ 梶委員、松田委員、間野委員（エゾシカ・陸上生態系 WG）
- ・ 敷田委員、愛甲委員、庄子委員、間野委員（適正利用・エコツーリズム WG）
- ・ 小宮山委員（河川工作物 AP）

検討状況等については適正利用・エコツーリズム検討会議に情報提供を行う。

検討のスケジュール

H 2 2 年度は専門家と行政機関による現状の把握と分析を行うとともに、大まかな方針案のとりまとめを目標とする。実際の保護管理にあたっては、地元関係者の合意・協力が不可欠であるため、H 2 3 年度以降、適正利用・エコツーリズム検討会議等の枠組みを活用し、2 年から 3 年をメドに地元関係者との合意形成を図る。

第 1 回検討会議

6 月 2 0 日（日）に開催する。現在、知床財団と両町を中心として実施されている追い払いなどの対策とヒグマ出没状況等の整理を重点的に行い、現状に対する共通認識を持つことを目標とする。なお、会議終了後は現地視察を予定している。